

第51回

全国海外子女教育研究大会 (鳥取大会)

- 1 主題 世界と子どもをひらき、つなぎ、つむぐ教育をめざして
～ネットワークでつむぐ、明日の教育～
- 2 主催 全国海外子女教育研究協議会
- 3 主管 鳥取県海外子女教育・国際理解教育研究会
- 4 後援 外務省 文部科学省 (公財) 海外子女教育振興財団
鳥根県教育委員会、岡山県教育委員会、広島県教育委員会、山口県教育委員会
鳥取県教育委員会、米子市教育委員会、鳥取県国際交流財団、JICA 中国 (申請予定)
- 5 会場 米子市コンベンションセンター「ビックシップ」
〒683-0043 鳥取県米子市末広町294番地
- 6 期日 2024年8月9日(金)～10日(土)

8月9日(金)

9:20～10:30

- ・全国代表者会 (含む文部科学省講話、同時並行 研究担当者会 ICT担当者会)
- ・参加者 受付

10:40～11:10

- ・オープニングイベント 荒神神楽(日野高校・郷土芸能部)予定

11:20～12:10

・開会行事

- ・開会のことば (全海研副会長)
- ・主催者挨拶 (全海研会長)
- ・来賓挨拶 (外務省、文部科学省、海外子女教育振興財団、鳥取県教委、米子市教委)
- ・開催地代表挨拶 (鳥海研会長)
- ・大会趣旨説明 (全海研副会長)
- ・閉会のことば (全海研副会長)

13:30～14:50

・記念講演

芝野 淳一 氏 (中京大学)

演題「帰国教師は赴任経験をどのように活用しているか？」

～「チェンジ・メイカーとしての可能性を考える」～

本講演では、帰国教師が学校現場でいかに赴任経験を活用しているかを、実態調査の結果を踏まえて報告する

15:00～17:00

・特定課題分科会

- ・第一分科会【教育のグローバル化】(IBと日本の教育の融合の視点から)

インターナショナルバカロレア (IB) は、世界中の様々な国の国際学校の教育課程を、社会に開かれた教育の視点から統合するカリキュラムです。実は、日本の学習指導要領が目指しているものと非常に親和性が強く、海外に携わる教師だけでなく、国内の授業改革に必須の考え方です。

担当：石坂 祐樹 (埼玉・所沢市教育センター)

山本 直子 (埼玉・埼玉県淑徳大学)

- ・第二分科会【国際理解教育の再構築】

国際理解教育の概念目標からスタートして、子どもの価値観を揺さぶり、視野を広げるための「素材の教材化」をテーマに、「授業づくりワークショップ」を行います。在外教育施設で入手した様々な素材をもとに、国内の先生方と協働できる「いつでも・どこでも・だれでもできる国際理解教育」づくりを考えます。

担当：久富 雅仁 (岐阜・養老郡養老町立東部中学校)

小川 文徳 (長野・小谷村立小谷中学校)

原田 英聖 (兵庫・神戸市立住吉中学校)

- ・第三分科会【派遣体験のカリキュラム化】(国際理解教育の目標からの一般化を通して) 在外教育施設に派遣された教員が、派遣体験をより国内で生かすには、国際理解教育の目標から、派遣体験を再構成することが求められます。派遣教師の「自分だけの国際理解教育」から、国内の教員と協働して進める「だれもができる国際理解教育」へと進化するためカリキュラムマネジメントについて考えます。

担当：松越 正純 (富山・舟橋村立舟橋小学校)
北根 晃一 (インドネシア・ジャカルタ日本人学校)

- ・第四分科会【日本人学校のインターナショナル化】
(日本人学校のこれからの在り方について)
選ばれる日本人学校になるには、開かれた日本人学校でなくてはなりません。そのために、日本の優れた教育を広く世界に発信する魅力増進活動の一環として、日本人学校が多国籍の子どもに開かれたインターナショナル校化を提言しています。現状とこれからの課題について考えます。

担当：高口 和治 (新潟・広域通信制高校さくら国際高等学校新潟キャンパス)
豆野 朋雄 (スイス・ジュネーブ補習授業校)

8月10日(土)

9:30~12:00

・実践事例発表会

(①帰国) 帰国児童生徒教育の実践(適応教育、教科学習教育、日本語教育) (②海外) 海外児童生徒教育等の実践(日本人学校、補習授業校) (③外国) 外国人児童生徒教育の実践(適応教育、教科学習教育、日本語教育) (④国際) 国際理解教育の実践 (小・中学校での実践、資料・教材作成等) (⑤外語) 英語活動・多言語活動の実践(小学校、小・中学校連携指導、ALTとの連携) (⑥現職) 現職教師研修の実践(学校単位、教委単位) (⑦管理) 管理職の実践(海外学校運営、現場教師向け、他校管理職向け、社会教育向け) (⑧組織) 各都道府県組織研修会の実践(派遣前研修、指導者養成研修 (⑨言語) 派遣中の言語習得について

1, 第一発表会場

- ①-1(①帰国) コロナ禍における日本人学校の取り組み
- ①-2(①帰国) 今、ここの平和教育ーヤンゴン日本人学校の実践を手がかりにー
- ①-3(①帰国) コロナ禍においての学びを深める生活科学習
- ①-4(⑧組織) 派遣希望者研修会の実施

2, 第二発表会場

- ②-1(①帰国) オンラインを活用した日墨の懸け橋となる児童の育成
- ②-2(①帰国) シングローバル人材について
- ②-3(①帰国) グローバル・イシューの複雑性を捉える国際教育

3, 第三発表会場

- ③-1(①帰国) 帰国して感じるシンガポールと日本の「つながり」
- ③-2(⑤外語) 小中連携英語教育
- ③-3(①帰国) 国際教室における課題と実践

4, 第四発表

- ④-1(③外国) (仮題) 日本型教育の発展に向けた日本人学校と現地校との協力体制のモデル化に向けて
- ④-2(③外国) (仮題) エジプト日本学校に展開する Tokkatsu を支える日本人スーパーバイザーの役割とその変遷
- ④-3(⑧組織) インターナショナルバカロレア (IB) と日本教育との共通点
- ④-4(②海外) アメリカの学校選択と日本人学校の役割

5, 第五発表

- ⑤-1(⑧組織) シニアその初まりと補習授業校訪問
- ⑤-2(④国際) 「大陸間SDGs教育プロジェクトにおける多様な表現活動と行動 (Action)」

13:30 ~ 14:55

・トーキングテーブル
1, 現職派遣への道

2, シニア派遣教師への道
(兼シニア研修会)

15:00 ~ 15:30

・閉会行事

- 開会の言葉 (全海研副会長)
- 会長挨拶 (全海研会長)
- 地元会長挨拶 (鳥海研会長)
- 次年度開催地挨拶 (茨城県会長)
- 閉会の言葉 (全海研副会長)

(8月11日(日) 鳥取県内社会巡検・・・各自自由散策)